

看護師の皆さんが安心して派遣で働くために

『ケアマネージャーと呼吸療法認定士』

2023年3月20日

日本派遣看護師協会

目次

- 1 ケアマネージャーとは？
- 2 ケアマネージャーになるには？
- 3 ケアマネージャーになるメリット
- 4 呼吸療法認定士とは？
- 5 呼吸療法認定士になるには？
- 6 呼吸療法認定士になるメリット

1. ケアマネージャーとは？

2022年8月に看護師がスキルアップに役立つ資格として「認定看護師」と「専門看護師」について詳しく解説しました。今回は「**ケアマネージャー**」と「**呼吸療法認定士**」について詳しくみていきたいと思います。

【豆知識】

ケアマネージャー（正式名称：介護支援専門員）は、2000年の介護保険制度の開始に伴い誕生し、介護保険法によって定められた専門職です。

ケアマネージャーとは？

ケアマネージャー（介護支援専門員）とは、介護保険制度において要介護者や要支援認定を受けた人の相談や心身の状況に応じたサービスを提供する専門職です。訪問介護や看護などの在宅サービスが受けられるように、ケアプランの作成や市町村・サービス事業者や施設などとの連絡調整を行います。

介護を必要とする利用者とサービス事業者や自治体をつなぐという、介護の現場で重要な役割を担う仕事です。ケアマネージャーは、主に居宅介護支援事業所や介護予防支援事業（地域包括支援センター）などで活躍しており、看護よりも介護分野の資格といえます。

高齢社会が進む中で、在宅医療のニーズが増えている現実があります。そのため、訪問看護師として、さらに活躍の幅を広げるためにケアマネージャーの資格を目指す看護師が増えています。



2. ケアマネージャーになるには？

一定の実務経験を満たしたうえで、ケアマネジャー試験の合格と実務研修の修了が必要

ケアマネージャーは国家資格ではなく都道府県ごとに登録・管理されている公的資格です。ケアマネージャーになるには、各都道府県で実施されるケアマネジャー試験に合格し、実務研修を修了する必要があります。この試験を受けるためには、医療福祉系の国家資格や一定の実務経験が求められます。

ケアマネージャーになるには？

ケアマネージャーになるには、保健医療福祉分野での実務経験が5年以上あり、介護支援専門員実務研修受講試験に合格し、介護支援専門員実務研修の過程を終了する必要があります。看護師は、5年以上の実務を経験すれば、ケアマネージャーの受験要件を満たします。

2022年度「第25回」の全体の合格率は19.0%でした。そのうち看護師・准看護師の合格者は1,849人で全体の構成比率で見ると17.9%となっています。このようにケアマネージャーは難関試験であることが分かります。

ケアマネージャーになるには、「独学で勉強する」「短期の講習・講座を受ける」などにより、試験の合格を目指します。勉強範囲は医療や介護領域だけでなく、それらに関わる法律なども含まれます。さらに試験に合格したあとは「介護支援専門員実務研修」という数日の実習と演習があります。

試験の難易度は高いですので本腰を入れて勉強しないと合格は難しいといえるでしょう。

■職種別合格者数(第1回～第25回試験の合計)

職 種	人 数	構成比率
医師	15,379 人	2.1 %
歯科医師	3,842 人	0.5 %
薬剤師	20,677 人	2.8 %
保健師	28,387 人	3.8 %
助産師	2,015 人	0.3 %
看護師、准看護師	174,930 人	23.7 %
理学療法士	18,074 人	2.4 %
作業療法士	10,599 人	1.4 %
視能訓練士	252 人	0.0 %
義肢装具士	149 人	0.0 %
歯科衛生士	11,998 人	1.6 %
言語聴覚士	1,509 人	0.2 %
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	9,622 人	1.3 %
柔道整復師	4,844 人	0.7 %
栄養士(管理栄養士を含む)	13,848 人	1.9 %
社会福祉士	47,364 人	6.4 %
介護福祉士	330,225 人	44.7 %
精神保健福祉士	6,257 人	0.8 %
相談援助業務等従事者	79,215 人	10.7 %
合 計	779,286 人	-

出典：厚生労働省 | 第25回介護支援専門員実務研修受講試験の実施状況について

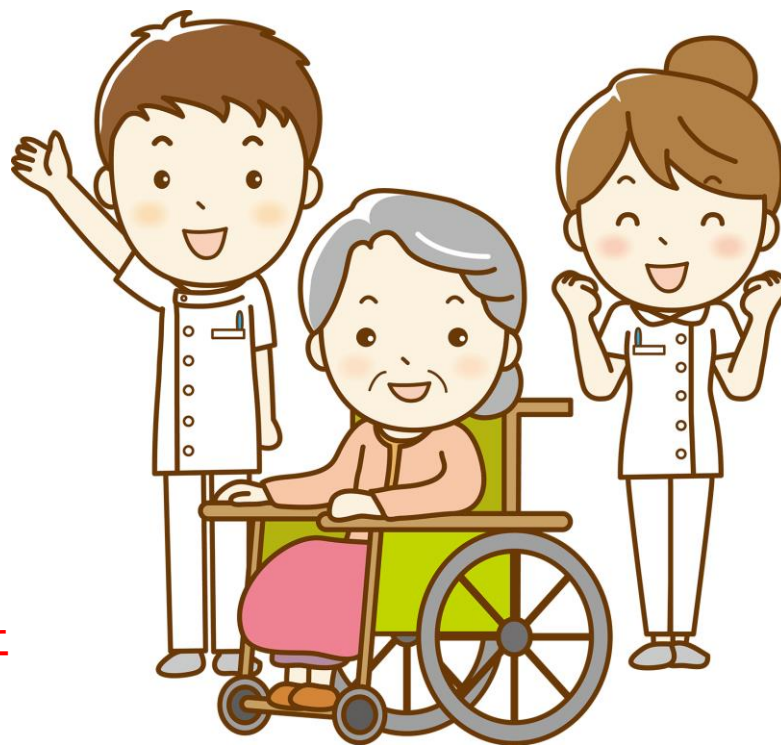
3. ケアマネージャーになるメリット

在宅医療は、今後もそのニーズは増えていくことが予想されます。看護師の資格とケアマネージャーの資格を持つことで、医療の知識と経験を介護の現場でも活かすことができるでしょう。

ケアマネージャーになるメリット

ケアマネージャーの資格を取得すると、以下のようなメリットがあります。

- 知識を身につけることで、質の高いサービスを提供できるようになる。
- 利用者やその家族との対話によって信頼関係が築ける。
- 地域の医療に貢献できる
- 夜勤の仕事はあまりありません
- 土日・祝日休みの職場も多い
- 残業なしの職場も多い
- 独立・開業も可能



認定試験や講習等は、各都道府県で管理されています。
毎年、詳細は4月頃に発表されます。興味ある方は忘れずにご確認ください。

<https://www.sssc.or.jp/shien/>

4. 呼吸療法認定士とは？

高齢化が進む一方、急性期や在宅対応などの医療が進歩するなかで、呼吸療法の重要性が注目されるようになりました。「呼吸療法認定士」は、呼吸管理やリハビリなどを習得した人が認定される資格です。

呼吸療法認定士とは？

呼吸療法認定士は、呼吸療法が必要な重症患者に対して専門的な知識と技術を用いてケアが実施できる専門職です。日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会の3学会より認定されます。ちなみに国家資格ではありません。

呼吸療法認定士には、看護師の他にも臨床工学士、理学療法士、作業療法士も取得することができます。呼吸療法認定士は、呼吸療法を支えるチームの一員として働くことができます。重症者の呼吸療法（吸入・酸素・呼吸理学療法・人工呼吸・機器の管理など）の重要性が高まる中、資格を取得することで活躍できるフィールドは広くなります。

高齢社会がさらに進み、呼吸療法を必要とする患者が病院やクリニック、在宅医療で増えることも予測され、この分野に興味があり、働く場所の選択肢を増やしたい看護師におすすめです。



5. 呼吸療法認定士になるには？

看護師が呼吸療法認定士の受験資格を得るには、**実務経験2年以上（准看護師は3年以上）**、認定委員会が認める講習会や学会に**5年以内**に出席した分で**12.5点以上の点数**を取得していることが必要です。

呼吸療法認定士になるには？

講習会では、**呼吸不全の病態や管理、呼吸リハビリテーション、人工呼吸器管理など呼吸療法に関わる内容**が主になります。

講習会や学会も全国各地で開かれています。遠方で開かれる講習会や学会に参加するときは、講習費以外に交通費や宿泊費がかかります。

呼吸療法認定士の試験は年に1回開かれ、5年毎に認定更新が必要です。

2022年の合格者数は3,868名で合格率は68.5%でした。そのうち看護師・准看護師は878名、理学療法士が1,207名となっています。看護師・准看護師はこれまで合計29,847名（50.3%）が合格しています。

試験は公式テキストや参考書による独学あるいは民間の有料講座を受けて臨むことになります。



6. 呼吸療法認定士になるメリット

呼吸療法認定士は国家資格ではなく認定資格であるため、これまでの業務内容が大幅に変化することはありませんが、知識や技術を学び、それを現場で生かすことができる資格であることは間違いありません。

呼吸療法認定士になるメリット

呼吸療法認定士の資格を取得すると、以下のようなメリットがあります。

- 看護師としての技術力が向上する
- 呼吸器系病棟を持つ病院やクリニックで活躍できる
- 病院によっては給与に反映される（手当がつく）
- 転職に有利になる



2023年の講習会・認定試験の日程は、下記URLでご確認ください。
講習開始は、8月末からですが、書類申し込みのためのDLは、3月31日までなので、興味のある方はお急ぎください。

第28回3学会合同呼吸療法認定士認定講習会及び認定試験
<https://www.jaame.or.jp/iryo/kokyu/apply/apply.html>